再治

和字大觀鈔

坤乾

合冊

ホ 2
74

明治2
號74
巻

東京帝國大學圖書之印

大觀餅序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和訓を以て文字に冠せ
本邦の音韻開合自然に
備る漢土の沈門神珠切
韻を制し悉曇の譯大事
小事偏に尽す愛に無相子

真字假字の義を辨論して
名和漢の書に言ふを
大觀餌と称す本邦の文字に
志ある者乃利種に効く
学窓に孫芳の功を

[illegible]

[illegible]

寶曆三年四月晦

五條菅原爲範卿

前大納言[illegible]

和字大鑑序

[illegible]

下[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人のひろきをたに
初り出くるみちをたに言葉たに
こゝにたゝまれに行ひたるを
[illegible]老社の秋興の所言葉に
[illegible]作[illegible]あ[illegible]同[illegible]の
[illegible]○乃生[illegible]人の

[illegible]根[illegible]も相乃[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]大[illegible]る上人[illegible]
いてやこの山人を驚乃山[illegible]
みの[illegible]人荒の[illegible]乃[illegible]
きを[illegible]

なをもて仮字とす
仮字つくりの初めは
生字仮字のわかれ或は五十字
文色葉の言葉をもて
かんなをわかちまた言
葉をもの演のまに

くさ於海をもて
強をもて合字といふものなり
言の乃字をもく
諸越をわかつ
行つをもて
生字なをかつもて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]通　[illegible]通
[illegible]通　[illegible]通
[illegible]通　[illegible]通

ちどりあらそふよ　ちかあづのひのやうをちらんやま
おろしたかき　片假字の五十字　いろはの四十七字　次第
らくくロ　ゆくへ　たづ　五十字　縦の十行　横通
横の五行　相通　おのくちるかなふるをちり　先
て假字　いろは　ひふへほの文字　ねう
うゐおくやま　けふこえてあさきゆめみし　そのほうひやう　稱　ゐれとる
を　大やうちらしめ　ものみて　家ふこと　酒をこぶもれも
か　那ばの　色のたかりなとし　試　初るれる　假字使のしか
ほかあれど　ロ　ねう　ゐれの五類を　所要　とする　ほてそのらる
いろはの四十七字を出だして　言葉　つべきためあり

表字假字の雜

表のさますべて漢字を用ひて和語我邦ちり　ちをはふと
稱す　ふ　ふ　漢世　假字　云ふの出来　より　ち假字ふ
雜　して　字の名を立て　新　假字ふ　二種　あり　片
假字　平假字　假字　と云　片假　ふい文字の偏旁　ず我部ち
て　その　を　假り　るもの形　平假字ハ漢字　草
草書　体を　一変　して　和字　せり　ふ文真字ふ　ず
假り　ゐ　ふれ　假字　字を指　て
云ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　字
乃名　ふ　文字のよみ　えい　ち字
乃名　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

古へ漢字とかゝまゝ二種の名ありて源氏物語に枝ふ。
はんかんかんこいへはそ。まゝ和かなと称ス二ツあり。源ふ
と云。片の字ありまゝ。れ名ありふ片字と云。源氏ふ
まゝ。ぐ和かなと稱して。片字ハ俗字の稱なり成ハ俗云
あらん。片字書を。又真字書を。云。字彙集の書籍
あれ。あり。ち書様ハ四種ち種の不同あり。なふハ。ち
し。ぬ。真字ふ拾穂抄ふ。詳ふ。

片假字

片假字ハ。該文の訛同じく。吉備公の作りし云。公ハ
文武。元明。元正聖武。孝謙。淳仁。の八朝ふ

渡ら。たびく入唐をし人あり。片假字とハ真字の一片
を。割き取りしふふ片字と云。又隻字隻文ふ云歟し。
使ちかゝくと訓ドて。一片の義あれだふり。片假字ハ和
字ふり。和字と云ハ。日本のこと通用して。異國ふ通ぜれ
ぐふまゝ。又片假字を大和假名と云ハ。和字ふれハ形ふ。
大和の國ふり生れむちぐと云ハ。ほゝ。まきり

片假字の本字

吉備公の片假字を作れる時ハ。いろはとちものあるゆ
あり。小源世ふ波あり。後人片假名ふ
いろはを云ふ。今ハいろはかよりし。ち和字を示さぐ

イハ伊の字乃偏を為りて低れり。ロハ呂の字は改鈔
耳也。ハは八の字なり。筆画すくなく形きくずしたるゆへ
偏旁を省くに乃ぞ手。真字拵すくなき故也なり。
半の字を書きあやまりて云也。誤れり。二は二の字略
仁の字を為るゆへ云云なり。ホは保の字を新
字形なるへき反の字拵略書形なりと云へり。邉の字乃
下戯なるゆへ誤なり。或云和板の大智度論第二十五巻
以下拵書略ル。反の字をへて小低る不徒く是なり
ゆへ反の字拵省処へ小低る徒なりといへり。トは止の
字を略けり。こゝ略るの例を下略を為るゆへ云云なり

訓を略して用ひる例おほし。蕣をあさ。去夏我
にてなる影なり。チハ千の字を全く用ひ訓よりなる
ちの音なり。リは利の字の毒を為る。又は奴の字拵
像形なり。ルは流の字拵省略なる。ヲハ乎の字を省き
たるなるべし。乎拵字を宗象集邪とゆゑの音を用ひ
なり。按ずるに乎の字は胡の字と同音にて。ごの音なる歟。
以ゆへよりをの音とさ侍ん。ち廻なるゆへ乎は略るの
文字なり。略なしごと略べば。外に変なるハをの音を近し
なるゆへをの音を用ひるなるべし。ち例文抄なし。回を略
の反懐を戸乗の反せるゆへのまなるべきを略るのあるの

高くして讀まれると同じ例あり。ワは日の字を横ゝ
ゝ。或は和の字形より云。カハ加の字あり。ヨハ
與の字より出より。タは多佐字の半体あり。レハ礼
の字の省略。ソは曾の字乃略を用ゆ。ツは図の
字を形る形象也。ソは曾の字乃略を用ゆ。ツは図の
書ゆもみゝより。ヅは湯あれども。和るゝ用ゆる者ハ。
清濁通用する所あり。地をちゝ。身をゝとする同じ。
子ハ十二支の中乃子城。称ゝ刊ずるゆゝして全く用ひざる
形也。ナは奈の字を形る。ラは良の字あり。ムは年
の略あり。ウは宇の冠あり。井は全く井の字形より。

ハ二千子井三の六字也。全字を用ひざる形より。式字
片仮字と名づく。歴のゝざれども。遷ゝして片仮字
の類字ふれべ。ゝゝの六字も片仮字と云あり。ノは乃也
字の前あり。乃ハ奈いの略形れたり。ふぬねの通ずれば
ゝ字のゝ略ふ用ひまれるあり。オは於の字を省き
たり。於は於の字の俗体あり。クは久の字より来る。
やゝ也の字の草書やを略まり。マハ万の字あるべ。
末の字ありと云説あれども。俗ゝ。或ハ一ふ低れるなり。
其ゝ万の字なる歟。ケは介の字を省けりなる
かいまれども。ちゝめしけのまゝ漢書あれり。フハ不を略り。

コ也 己の字あり。古ゆゑなしゞ。エ也 江の字なり。テハ
天の字あん。又亭の字あり云も云。アハ阿の字体偏あり。
サ也 薩の冠あり云云。キ也 奇の字より来るあらん。
ユ也 弓の字形なるべし。メハ女の字用也。エユメ共ふ
訓を用ひ。ユハ弓を略せり。是訓云ふ略なるもの
又形なし。三ハ三あり。み訓を用也。し也 之の字の草云
し略なるより来ること云。或云 実の字をかきなれるあやまり
らん。実ハ實の字体省文清濁通用なる形なり。エ也 一説ふ。
口の字いふ〳〵慧の字を慧に似たり。生事をさりたるあり
云云。私に按ずるに此の字あらんか。是也 恵の省字なり。

平仮字にも恵の字を用ひ〳〵り。ヒ也 比の半片なり。モハ
毛の字あり。セ也 世を用ゆ。ス也 須の下を略なり。
ケ也 祭ずりふ。ち偏云 一旦なり。片偏字或おとぐく割義セ
るふを略ら〳〵。ち稽よりあり。おろく片字或偏人
ありて。ち体も一様もざりしふ。古備又是を折衷し
て大成するあらん。あり 異体の偏字者ゆ〳〵く古書乃
中ふ略まるものなり。ワを禾に似る。和の字あり。子を
ネふ似る祢の字あり。ツを爪ふ似る法発なる略也 星
或云爪也ツふ似ずして按ずるふさこの字
をつぐれば。スのちとあり。ナを七に似る左乃

事也を小仮名を部ちゐるもあり。三をアとゐ仮名民の字を省略り、ヨを与に仮名。与の字略り。ホを甲の仮名。保の字略り。以上の義字古書りみ〳〵さまゝ又ウをゐ不仮名ツをいふ仮名る。古書ふこんえ書り。此外ンを无の字をそれりんの字も无あり出さり。てハコトふ用ゆ。ヲの字を部ちあるべし。へをナリとよむ。の字を形るあり。オをトキとよむ。時の字の書あり。メをシテ為用ゆ。為の字を省略り。下をタ〻、と傳ま。下の字なり。片をトキを合をて一点を略り。片をトモを合たるあり。又權をオ仮名。孫を子ゐ

仮名。従をイふ仮名。部をアと仮名事書り。仮字書と云。唐山も如所例あり。掌画を省略して省文と云。發を発ふ仮名。麗を爽ゐ仮名。義を又ふ仮名数書多し。

五十字文

片仮字のはじめ書れ義別りよりて五十字文を作きり。五書て八幡宮賀春日の詠歌の図あり。ふ仮名反の歌云吉備公仮名あり云。又或説百論の尼法明對馬の歌り書り。此歌を作り。歌人仮名ふ。歌ふ歌云ふ歌。こゝ云よ〳〵。へつまむ。おぢつの形し。こゝ世ふ。いろはの名も仮名。ぢれで。後人の名付て事をはふふ書をたるあり。

日本音韻開合假字反圖

| | | |

右図の孫ふ字ゆりて。平字を又まろう配略する事い
くらよくあれり。あうりといへども。ちまるふ三川。喉言ふこ
川廣口言ふ二川ゆるハ。伺の匹開あるゆをつまみまへ知る人
ゆら事をきうび。私ふ按ずるめ又まるゆ一つの川を。粗ゆ、
わのちたるまゝ。あり。言を七まるあゝ。ぎれて。懶ゆ言ふ
こゝゆゝ。ゆをを七言ゆ一つのてバ。ちまるゆ中ゆり
半舌半歯の二川を一つゆ。ゆいぐゆあり。らまゆれろを。
歯言と名けあふぬ孫のを。歯舌言とすゆ。ゆ伝
の所。いまゞ七言ゆの沙法あるゆゞ。ぎれゆ言ゆの割符ハ同ど
ゆれだ。七言をゆて見をつゆ。ゆ一も違ゆ。

七言を略め作りて
ゆ口ゆ。ゆ。ゆ。

ゝるあて。糅（カロ）く列（ソト）うゆゝうゆゝうゆゝう

入蓂の蓂ホ。たふ答カ合あで出くあり。訓ホし。
ひさぐふ淡茅生よもぎふ蓬生あで書。うの記ぎに
よもぎあり。見きはひふ歴ほの字。ワあうる彩ホかのふう
ひる歴ホ。うとふこ通ぎるあり。おくよふひるうとト。下ホ
あるうこ。往金同じ。のうざれだ。二形ホうの字を成きる
あり。言れだワあう意れの二形きる。蓂の字面のごとあれ
ども。字をはひ姫色ホの米を蓂とる形り。ホホの場
ホを。稗ひきひふへホの字を。書きこたくて志ゝしめ
たり。蓂蓂ハかくぼうり。中地蓂部ホ。あワやの三形を
ワうてる風見。い井をれこ意い。をてとより往金同じ

うこ手。見こうを作うひワ侍を。偽字仮の大事ニ注るあり。
かをづ。の元の大事ハたゞ蓂蓂ホ。ホ。あホ蓂蓂ホ。あワ
やの三形を元て。ホ。も代号の好孫と中ニホ。部屋せり。源
来ニとりホるゆをとおうぐゝ。又世流布孫五十字文
イ。いあを和元る意の亟を。ひやゆるゆ。ホ。よくく
吟味すべし。ホうくゝ。変相管ホ。ハ仮名の本元
志ゝるゆ。ホこ。

直音拗音

ホいはは江を書の五十字ニ。四音あり。見を拗音と
云。又ゝこのまるのトり。イヤ ウワあどのかホを付け

にるゝ。そ孫一この虫ゝ。少しひずみて変ぜるゝを。掃ゝ
とゝ名付て。付け意てゝ。ゝ。ゝ。兄て字合こ一種の別あり
て。左ゝ。ゝ。泥ゝ。ゝ。掃ゝ。ゝ。字ゝ書ゝ。ゝ。絞反折辻
拉也とゝ。ゝ。ゝ。

第一の形小ゆりて横の方へ廻る形り。やゝゆ
えよりはゆるくなれの二つ目を。喉の合音にて。サー変〜音
音形り有小物音也。顔くきるあり。生平やゝゆえよい。
同じく通ずる有て。物平の平平〜。口井う音おを合と
す所あり。一切の音ハ。海音を本とし。又後音を通り三形を
立てゝ。ゆるゆ。ゆるいゝれゆゆ中。深く。高低有〜。

榔望　榔生

あの一音成。音形報元ゆ。をよ数〜人の口をく仏きて。
音を生ずるゆ。ゆ。かあゝず。あの音形りそれよりしてて
サー〜唇を掘みて。舌既く唇を触れば。いの音となり。

又唇を合すれば。ゆ音形りあるゆ形り。又いの音。形ゆ報
きて。喉〜入られば。ゆの音となり。うの音を喉ゆ入る
形ゆ。ゆの音となるあり。ゆられば。ゆの一音より。いうの
二つを生じ。いよりはを生じ。うよりを成生ず。これ
皆合呼吸の関ゆ有り。両合ゆ口を閉ゆ音と
合ずと。呼吸と。外て出る音を呼とゆひ。内て
入る音を吸と名づく。かきくけこ。すせそ。ゆの九
行もみなくあいうはを同じく。一よりこゝを生じ。二
よりゆを生じ。三よりゆを生ずるの音あり。
又横のあのさたなはまやらわの次第ハ。粒より。

ふこるあり。ゆくさ。嬰(ゲ)ま罷(レ)の者(オ)にて。ひをあ飛(ビ)ぎしう
輕(カロ)く出る者(オ)なり。たふの二所(ヒ)。古のほとゝぎすて
用ゆる者なり。はまはなゝ所(ヒ)。屋(ヤ)のたてゝ義あり。やら
わのこゝ所(ヒ)。屋(ヤ)と屋(ヤ)とを連(レ)ねる者なり。自然(レゼン)まとかぎ
なり。おもきふいと侍る第(ダイ)なり。十(ト)者を法(ホウ)度ねたるあり。十
形あきとも。もと侍第(ダイ)一所(ヒ)の所(ヒ)にて。又あい
うえもをふおきたる者なり。第(ダイ)一拂(フツ)樣(ヤウ)ハ。ゆより生ずる者。
かゝと形はまやうつゝに。長(ナカ)く引けゞ。下ふゆの記(キ)ぎを使(ツカ)く
たる者なり。第(ダイ)二のいき者(オ)ちふ記みいりねの十(ト)者。ハより
生ずる者なり。みゝくゝ引(ヒ)くふいの記(キ)ぎ侍る者なり。ま

うゝ者(オ)ハ。ぬぬむゆるゝハ。うより生ずる者なれども。みゝくゝ
引きざ者(オ)なり。うのひぎを越(ヱ)まくゝなり。第(ダイ)四の之(シ)けゝそ
祢屋(ヤ)ゝ之(シ)ぎ者(オ)のをもりみ者(オ)。かゝ者(オ)ゞ仁(ニ)のひぎ者(オ)。侍
ふ。仁(ニ)の者(オ)より生ずる者なり。第(ダイ)五ゝ之(シ)ゝ者(オ)のゆ者(オ)ろ
わ者(オ)をより生ゞて。引きざ者(オ)ゝ之(シ)ゝ者(オ)の記(キ)ぎ者(オ)なる者なり。
ゆいゝ之(シ)ゝ者(オ)の之(シ)字者(オ)。一切(サイ)者(オ)なる夢(ゾウ)の記(キ)ぎ者(オ)ゝ者(オ)なり。
ひぎゝとハ。鶏(イン)者(オ)なり。梵(ボン)字(ジ)ふ者(オ)ふ者(オ)。此(シ)文(モン)者(オ)を魔(マ)多(タ)ゝ者(オ)ゝ者(オ)。
魔(マ)多(タ)ゝ者(オ)ゝ云ハ。鶏(イン)の義(ギ)者(オ)なり。その五十字ハ。梵(ボン)字(ジ)者(オ)ゝ者(オ)
乃之(ノシ)者(オ)り相(ソウ)似(ジ)ゝ者(オ)なり。所(シヨ)ふ記(キ)ぎ者(オ)の注(チウ)樣(ヤウ)ふ。みゝ者(オ)ゝ者(オ)ゝ者(オ)
より出て侍る者(オ)ゝ。ゝ者(オ)ゝ者(オ)ゝ者(オ)ゝ者(オ)ゝ者(オ)

なりき。五十字文ハ吉備公作れりと云。ゑるに日記ハ
梵字摂字ハ空海の作。空海ハ唐の時代の人なれば
五十字文ハ遠ざかれり。吉備五の財。素延あるゆゑ
五十字文ハ遠ざかり。ゆゑに作れる歟。
さて作り給ひたるなれば。ゆゑに
あらず。筆圧同じ。されどあり。あいうえおかきくけこの
法法も。古法云の付ある法ゆゑ。母音と子音
かれへるなり。所ふたの五十字解くるゆゑ
むつかしく法ゆゑ。
第一ゆゑ。

に元みいり井也。半つ母半合あり。半とうとゆゑ
第四元音物ていはまつ母音合。第五をと拗とその八合也。
ゆゑ陸を奉とし。横を翰と稱する形り。日本の方該
ハ。たゞ一母合程重のみめて十ばかり

假字反切

かゆがゝしゝ云ゆゑて。五十文の圓みて反をするあり。
反すべ爽二字の中にて。上の字を父字といひ。下拗字を母
字と云。ちゝ小横本字堅留末父字上下母字
横ゆゑ云ゆゑ。反切する父字母字を以爲ゆゑて
みるなり。二字ともに小横の同形あるハ父字ゆゑ。二字ゆゑ

了吟之の同形あるハ。毋字ハ反するを。横倚本臥之間赤
こと云あり。たとへむキ井を反せばきと形り。ヨコを反セ
バヨと形るハ。横臥本字なり。又タテを反をバテこあり。
ム三をかへせば三こあるハ臥之間赤字あり。すこキエの
かしハケこあり。ツアの反をタ半形る数こ又字
の上下あり下あり。毋字の横通り前る字を。帰字やこ
するあり。乞を又字の上下毋字の横こ云あり。和歌の
反しを試ばりふこ。いづれも遠ふ事形し。消ぬべうり
なるこ云歟。をけぬべふり者るこ云ハ。戎えのかへし
けあれど形る。あれうみ淡海をあふみこ云ハ。はうを

反をハふこあるがゆし。又字毋字ともホ。直字あれど
たぐふゆあり。もし拗者の字。或ハ下り祝ぎきはらふ
所る字をかしらぐかりきりこりてかへせば。たぐふ事
あり。字書あぐふ所る系の源字はこ書り付ける反切。
此器にしかへすこ撰りあり。方戎の反風の字はぐこき
ハ。ひうはこ者りありて。西こ者ふかりぶ。かやうあるはふ。
二三相通こ云ゆをこうして。ふりの書ありこ云ハ。傳ふ
あり。時りよりて二字も相通じ。二反字も通じ。一二字も
相通ずふ。ふれどはうひうふうへうこ。ぱる同じるもと
ありて。高抵差別こちぐこ。此あふ此器あて。源字の

為ぢくし。相通を云ハ。大あるひのくはりこあるべし。類玄
字書抱書切ハ類聚抄にて百物すぐし。後にて五千字
又てよりるもあれ。此国をたゞ俗字をかへすばかり
なれば。かゝる及といふなるべし

横相同音横通

五千字文の上下を竪こし。左右を横こす。竪の千
字。それくの一行五字お通じ。横の五字。各の十字相
通ずるゆゑなり。ちなみにけまばかり。竪を横相同竪相
通と云。又同音相通同類お通ずるを云。竪の一行を同音
こと云。嗟音肖音の一ちがへるの一ちがへるあれば。横の十字を
同類こと云。ひのひ貴いの類ひなど皆同しこれなり。竪の又
字皆くに混雑し。横の十字すべて通用すと云ふべし
時ありて。字中にて一二相通ずるゆゑ。お通
の字ハ下り出をかぶせてくし。

ひのいうひを相通

うゆ海ふ敬をいゆゆふとし。うやくし。恭をいゆくし。と
する類同音相通なり。又うば魚をいをこと。草子物語など
ふたこうをこと書しもいを字よりの類のあるひあり。又下ふけて
いうう通ふなり。近ウイ 都ウイ 白ウイ あど。皆こと云ふいうお通
あり○乙ほをと也。こうこうをとよりこうにお通あり。

おがみ　元賞をおがむ　序も又同じ　○こがたちをの遠里小野ハ。摂津の国の名所なり。をのと云ハ弓を里人のことうまうのといへるをいふ。をうあ通あり　○あふ　逢　あふみ　近江　あふぎ　扇　あふち　樗の花。あの字ハ平し。をの字ハ上聲ハあを相通あり。是あふ云ふのふに通ふのいえハ。ぬいうにをお通あり。

かきくけこ相通

かふ　買　かふる　更　かふ　飼の類。たゞふ　遠南のぶ　絲かふち　河内ぶ。かの字ハ平こ　孩　ちかこ　ちかこ相通あり　○　蚕　クキ　浴　クキ　流　クキの類。きく相通　○はこ　箱ら　蘿蔔をたくべらこし。だいとく大徳寺だいとこし。雑懐山を書しをとこ

やまとらもの類をこあ通　○ゆふづきよ　夕月夜をゆふづく　よこし。ひく　引　案をはなとすはる類。ゑを相通形り。

ひし　菱　ひし相通

あぐらへ　准をあぐへし。そさのを　素戔嗚をすさのを　ちる　散　すそ　裾　お通　○さへ　副をさへうするハちうお通　○　奏　スル　通　スル　感　スル　の類。ゑを　絵　相通　○　行　ギヤウ　スリ　申　ウス　ヒリ　の類　ゑ。すも相通明り。

たもつ　たてゑ相通

て　手　ゑ　絵　ゑ　ゑ　ゑ。てのごひ手拭をたの　ごひ　ひとすぢ　ひとすぢ　ひとすぢ

あで。たの字をさふらもたる。たと相通○恥ヂ恐ヂ詩ヂのヂの
数。ちつ相通〇はをて乖孫をさふぞてさし。こ爻者を
はきしすぶまる。ぼとお通○たのまれ杉松をはいまつを
ちるいたれ杉通あり。

なふぬねの相通

をぎあふ補を試きぬふるする。あぬお通○ふさし麻表
をのふーさし。曖蔓をのふまんさまみ。ぶんまう煩悩を
ぼんのうやさ。あまれあふ出納をあまつのふする数。お
の布巾○ふぬと粉子をあのこさし。のどふ拭をぬぐふと
ちるいぬの相通○ふもびと舟人をぬふ祝ふさまるふ。

ふ孫相通形ゆ。

はひふへほ相通

ハ北ヒ北フ北ヘ北ホ北の数。甚ぞ多ーし。ふ一相通すれど
あり。ふの字あれども。をさうあ通ひてあもこれ。ひふへか
ハひふへほ。ふかよへだ形り。○備ヒ咽ヒ考ヒ代ヒ
押ヒ九の数。ふへ相通にしぱるふの字をうあみてつうふ
あり。うある植かある代こかくあでのうに○はへ蝿をえ
ひこーかへ原蟇をかひるこーかへで根をかひでをこ
すあこ。ひへ相通にしひ。ひうおをうえたる形り○ちふ
蔓いうふ祝ふぞ。はの字あしちうに。又杉うにかちうこ。

はかおの通ふ。ちりおのまをこめこまぐ。きいぐる
りき相狂。きのぐ。ぐ。ぐ。きするもまこ同じ。○
おもふ思おもひおもふ。おもりん。はひ。へ相通又おも
かるい。ゆるい。ゆるる。ゆ。思。ゆ。ゆるる。ゆ。又おもふ仕をー
ふ。ふ。業のふ。ゆ。ゆ。ぐ。きかふ。ふ。ふ。ぐ。ゆ。ゆ。ゆ

し。きつ役をゆ秀とするハ。ゆ相通。雄融有尤曲の類。
ゆうとよむもはさ杉家ゞ○消越拏前貴
乃類。えゆ相通○をゆび小指ををよびうするハ。ゆよ相
通あり

羅里るれろ相通

別離ハ。まれお通○悪軽ハ。るろお通○
借り去りあゞ。まるお通○裳ふ嫌はゝ姉ゝふ
捕さ。らの字ろふら。ら。ろ相通○割り多りあゞ。
まるゝ。お通○坐を。をゝん。をりをるをれをろと
ゆへゞ。らりる稽呂落通ずるなり。

和井う毛移相通

毛をおうとよむ。ゐ。わ相通。人皇王王あゞ。あうゐ井ゞ。
仁和をにんあとすゐハ。あうさゝれはまやらわの横通あ
きばあり。

源字は遠とつゐ字るゐ相通

可毛をかゐいと毛ゐあり。尚考ふべゝ。

あいうえ我さやゆ相通

ゞ海ひ出合をゞやひさ。ゆあふ仏合をはやふゝ云の類。
や河の相通○たゝ体仕ゝるゝ流を。たゆるゝ流ゝゆる
ゝゝるゝよゆ。ゆ。ゆ相通○弥生をやよひゝするゝ。

をよお通あり。

ひいらけ茂とたまはて さ和通

入道のたまる祝ぎまひのうたけ。あいうえをのるたちつてとふ拙ずるゆひり。脳髄をげったんこ。八まるをはっちんこ。善悪仏性をたつつぶ川ちうこ。別腹を殿ってんこうこ手こ者茂ぜり。うんこうのごとし

あいこうをこあめ世孫業お通

はゆるる拙下ひこ。あいこうに茂姉。るゆ。ぬはのと茂るゆひの手。善悪をぜんあくこ。延引をえんけんと。膝蒙をけんゆんこ。因縁をいん縁こ。魏まるを

くいんのんこうふの数是拙り。

はひふ屋ふとほ見れむめも相通

ゆんり尿をゆまるこ。女ぼき狭を女陰紀こ。ぐまる。相通○さひーき寝家をさみーゆこ。もみび睦をもつこ。こするハ。祝みお通○ひのそれ。ふれか情をあいれむこ。えこふ。擦をえらけこ。るハ。毛相通○こ。あべて葉をあ。お茶ってこ。すへらき皇をすあらぎここふハへめわ通○ふ。ぢりを飯ふとるこ。ひふ。徒を元もこ。ぞ。ひ徒。をここ。ぢすあこ。ほも相通あり。

はひ姫毒法と口ゆこ。ゆう。ふ相通

頭のもうりてたひふへほ特じて口并うあ和と形所あり
てたはの時。た体字をワとよむ口の唇ほあどのどしゝ又枇杷琵
琶。枇杷。芋。蕷。はの字をワとよむはつま通あり○うひ
哀。うひ。初。ひ思あどえをおとよむ。土肥。甲斐あど同じ。ひ
お相通○ゆふ結ぬふ健あどふの字代うとよむ。泡。輕。紺。丹
生あど同じ。ふう相通○あへ苗かへる帰うまへ憂あど。屋
を表イ。湯。疋。斤。釜あど又同じ。屋表お通○いちい蓋か
は表おわふ裏あど。ほを於うよ鞭。依。保。姫。彦。彦。佐あど同じ。
かお相通すれどあり。

あかたうあはまあらワ相通

陽。日。表。ちさく。ぢ。ぢ。ぢ

ゝゝゝゝの形。すぬ和通○蜘ユフの形。ぬゆ相通○度スルあど。
ぬす相通○ゐるの形。ゐぐ 夜神殿をよんの抽ぐ。ぐゆ。
むる和通○漢字をたぬきゝるゝ。むぬ相通○たつとぶ言
をたかとぬとする。ゆ川相通○うゝぎ五茄をむゝぎゝ。
むめ梅をうめゝ。うバ 祖母をおばゝ。たゝむかみ紙を
たゝうがみとする。うむ相通あり。

えけ紫て袖屏風はきゝ相通

蕪くをえんゆんゝ。繁紫をはむ袖ゆと呼ぶ。ゝゝ袖ゆ
通○仏菩を台菩ゝぶつてゝ。花通別園をさゝつべつ
ちんゝゝゝ。ぷんゝゝ相通あり。

まゝちゝとの中母与ゝ相通

かゝり幅幅をかゝりゝゝ。ほゝお通○ちるゝ手ちるを
ちゝんゝゝゝすゝ。ゝゝと相通○盛盛をかんのゝゝ
ゝ。樽多樽ちんのんゝ。ゝるゝをの相通所柔。

むをにゝす

編をえゝゝゝ。蛇蛇をゝをゝ。蟻をゝゝゝ。
蟻蟻をちゝゝゝする。ゆみむめもなゆ身袖乃ゆ通ひ
てゝゝゝゝ相通すゝゝり。通ゝゝゝゝゝゝ。ゝ例ゝゝゝゝ。
ゝゝのゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ

いろはの頭目

四十七字の仮字。いろはを以て題号とする。こゝに書るの諸の字をありて題とする例なり。論語の學而篇などを。篇目とするに同じ。古人もいろはを学ぶこゝろの。その名あきらかなるべし。いろはと云ふことは。字の名をつゞめ。毋をいろはと云ふ。又一毋を変毋よりの事なり。関白太政大臣藤原朝臣忠通公の歌に。四十七字を用ひて。一切の調をほゞこゝろみ。言詞の毋あれば。いろはと名付くるもん。毋字と稱するべし。天不。

素読の學者を字毋と稱し。字毋は七字なるの三十六字を字毋とも毋字とも稱する歟。そのいろはは日本の字母なれば。字毋とも毋字とも稱する歟。

色葉の仮者

仮者はどうあるべきぞ。いろは書もあり。又ひらがなは弘法大師仮りたまへるとゝなり。大師入唐の仮名ありこゝろふ。証あれども。仮名は歌の源。言葉を山をつゞ学ぶべきもの。仮者の中。好河の言葉野辺に引きもきり。高野山のゆゑ。郷元入唐の歌。ちはやぶる。ハ〜夕。海藻をいふ。唐土の。こけるハ大師山をきり。神ゝのを引ひて。学ぶこそ。ちはやぶる。本の名のたゝみ。

文字の事を考へぬ。考るに一字の心得べきみちはかり考へ
て。いろはの四十八字（八の字七なり）をもつて心をあらはし
よりすべのさとれ人のたすけもなりぬ。等く信かたもん
いへり。左伝すべき事ありき。さきの世に法を説へられる人
まれなるべし。高僧載を伝る。又出家園。祇口歌。塩竈の神
門まぶり。弘法大師生蹟のいろはありて。幸蹟。又石山も
刻みて。いろは歌石と名ぶくこと云。其の学位。字考秘り
出せり。大師の作なるも物かたるべし。

いろはの文言

いろは歌。是繁縟の法門無常。是生滅法。生滅こと已。
寂滅為楽。此句の文の意を。ぢぐりのべる。ありとも。
色ハ匂（イロハ）艶（ニホヘド）散（チリヌ）去ルヲ。我世誰（ワガヨタレ）ゾ常（ツネナラム）。有為（ウヰ）ノ奥山（オクヤマ）
今日越（ケフコエ）テ。浅キ夢（アサキユメ）見（ミジ）。酔（エヒ）モ不（セズ）。
常（ツネ）ならぬ。是を。ぢして。七字。ずつ。ずつ。ひらがなの。
読まれ。ぱひふへほの唇音のすべてをもつて発。
又ふのみ。ぱひふへほの文字。口をつぼめ。ふかして。
吹きかけるほををへいるをわえるの各二字づつ
ありて。ち稚童の世ひけ。ぢぐちん。ぢきたちふ。
いづれも。幼の事。ゐ。かゝ。ぬ。ぬ。ぬ。
いのゐ字かさねて。等身の事。ゐるやうにおもへる。ひと

以婦一なり。ある程ずや。

京の字

大師の真蹟(シンセキ)にハ。京の字あり。と云へり。源人(ゲンジン)如べしるあん。
一説に傳教大師(デンキヤウ)の作へ給へるとも云。京抜字を加へしるし。
ゆゑ我ずりに。いろ波のすくれし。偽字(ソカヒ)のやうに。大方(ヤウ)い和れ
ども。合字(ゴウジ)の法ハ。此方ハ京の一字を言て。
きやうの三字を合せて。京のまるこ有るばかりなり。
よ詠づ合字抜法を。以傳一をくへたるあり。是こそ。
よろづの文字おかき中。京の字をたくくるハ。みやこを言(イフ)也
の義なりべし。又一こゝより百ゑ万後まての字。ち波ふ

こゝ形ゆ事。是も生字のかゝを用ゐるゆをなしてる
あるめいみ。いとゝ社所ふ。ふるとよみて。その偽字(ソカヒ)ハ傳教大
師ゆ。又神書に。一より後まての州をひふみよいつむ
なやこともちらしも後なり。

いろ波の字縄

いろはを和字とハ。漢人よ和字とハ。ざれ。ざれ
もと。漢字より出れども。そもそもを一義にして。
和字と和形あり。い和字以漢字以真字。ろ和ろ波
呂真。は和波波真。に和に波仁真。ほ和保波
保真。へ和反真。と和止波止真。ち和ち波知真

り 和 利 真。ぬ 和 漢 奴 真。る 和 留 漢 留 去。を 和 漢 遠
真。わ 和 漢 和 去。か 和 漢 加 真。よ 和 与 漢 与 真。た 和
た 漢 太 真。れ 和 礼 漢 礼 去。そ 和 曾 去。つ 和 漢
門 真。ね 和 祢 漢 祢 去。な 和 奈 漢 奈 真。ら 和 漢 良
真。む 和 毛 漢 武 真。う 和 宇 漢 宇 真。ゐ 和 漢 為 真
。の 和 乃 漢 乃 去。お 和 於 漢 於 真。く 和 久 漢 久 真
。や 和 漢 也 真。ま 和 末 漢 末 真。け 和 计 漢 計 真。ふ
和 漢 不 真。こ 和 己 漢 己 真。え 和 漢 江 真。て 和 漢
天 去。あ 和 安 漢 安 真。さ 和 さ 漢 左 真。き 和 幾 漢
幾 真。ゆ 和 由 漢 由 真。め 和 漢 女 真。み 和 み 漢 美

真。し 和 し 漢 之 真。ゑ 和 ゑ 漢 惠 真。ひ 和 ひ 漢 比 真
。も 和 も 漢 毛 真。せ 和 せ 漢 世 真。す 和 す 漢 寸 去。ん 中
ちにめの字の字。訓を用ひてあるを略
き。或は仮字の字を用ひてあるを略
より。或は仮字の字を用ひてあるを略
土文字の字をそのまゝ用ひてあるを略
土文字の字を用ひてあるを略
訓にあらず用ひられたるもの。
よりて仮字の字。
多し。其中へ八反の字の省文なる事。仮字の中にあるべし。
ふのみとしつる門の字あるべし。仮字の字の中に略

らのあらぬやうあれど門の字の音去門の字と同じくつゝ俗りつゝ不俗ることあれど片假字のつゝ門の字あらんとおもひて門の字を俗り猶ふあらん一説に茶碗の茶ちゃと川の字をつゝ用ひたり澤と同じく訓しまるる所ふいろはのつゝ川の字なりといつり是信じがたき説あり門の字つゝ俗る歟きいられあり澤を俗ふの義又いつゝまふあどの略なりつゝ川をつゝ訓ぎるもおどつゝあるらんなり加つりて門の字そゝ去つゝ俗りたるを川の字と誤りたるなるべいろはのつゝ門の字とするをあしとす

扇一門を唐翁都豆の反つの音なり又仁いにん保ほ

ゆう反へん遠をを人大きたい礼ふきの胃ハそう祢ハねい奈ハないい良ろらう未ゑ末ゑ計ハけい天ゑてん安ゑあん

ゑはまう世ハせいすんそんち部を下略せるなり是又古よりの略なを字り用ひ来るなり是の中反しまるりん良ハまるまう寸はまるそんまるを不〻く誤り来りて面んらうすんを部なり又りハ利の半体片假字を用ひるりりハ刀の字にて毛のまるのるゝ飛ぶ乃ゑふいのまるを指ぎるなり今ゑ和字と彩りて西字西まるくかくるゝ通用ゑ原を妙漢とすべし又生字ハ出ゑる字その近ゑものをあらし也俗字あるも此ゑまゝふ少きり

及しも西倭を論ずる不掛ずず。

和字國字の辨

いろはの中。サヽ濁字草出の字ある字あれども。そもそも
わゞ國の書体。雜藁を学ぶ所ふ。自然に偽乱に流れて
和字こゝ成る。法ある濁点の人いろはを目にて字を誘ひ
所こゝ成。又他の字あるこゝをもゝぶ。うゐ偽へて偽字実
字。又日本の國字あゝ稀なり。書史會要に載さゝ体
あゞ。偽ゝて語り。奇怪なる抽ゝあれり。是をつきすゝ知
らざ所をゝ。唐土の人のかけるいろはありゝし。別体ある
やうに覚ゝる人ゝ多ゝ。唐ちふ和字あるゆゝ所ゝず。

國の文字を偽ゝあやまりたるあり。さいろはを。
いろは以後へ止まりあるれ和かなたれ了法
稀ゝらをゝなのれまくゝやけふへねこ弟
出と。そこ洲あ手て西をて世
出使。金色三石海苔あゞ。ゝ出る所。ゝ八不貝ゆゝあり
まの字ハいづれも語りて。松くゝの間ゝ入れ了。又和字式
國字ふゝも云。乙芝の樹字。蕪菁字。韓字。朝鮮の僧文。阿
蕃僧字あゝ。その西ゝ手し。新ゝ作りたる國字ゝ。
本邦の國字を濁字のつ変したる物あれど。他方の表
字ゝ同じゝず。武ふ偽字ゝ云ひあゝハゝり。

平假字之説

いろはを平假字と稱するは。本邦世系に生。平易の義と云。ふ按ずるに平假の名和漢男女通用の仮字なるべし。片假字は男子の用ひられたり。そのいろはの字を用ひ。平假字と稱するなり。土佐日記に男子文字をオコトモシ。平かなを女文字(フミナモシ)といへり。

平假字の類字

以伊伊夷異。呂呂路路恠爐。葉葉者

半半半半盤八八。ホホ不不耳耳冊冊ま干

二二。ホホ本本本保保 重重遍重重遍〳〵反。止止登登。地地子子。吉吉知知。里里李李利

梨梨理理。怒怒努努。留留る留留 類類流流 累累。遠遠を遠 越越乎乎。王王ワ曰和和輪輪。

可可禾閑賀賀嘉嘉。与与支世世。多多

堂堂堂堂と太。禮禮礼礼連連。曾曾西所

越越。津津つ 徒徒川川。祢祢祢子弁。奈

奈奈那那那那南。羅羅ら良。年年 無

無舞舞舞人无。字宇。井井為乃為。袁袁

農濃濃 聖聖野 能能能能乃乃。於おおおお於

○乞具九九久。乎也屋。末波多満巳寸万
○斗計豆豆乳氣乞兮者遣希。婦奴婦多
布不。古古ハヒ。阿奴得元ヲヲ兄。ヲヲ兄
氏寄多亭。阿阿安。佐佐佐寄声。起支伎毒
喜者ヲ幾。往遊遊由由。免免。見元見三
多多美。志志志之。東衛舎會惠恵
ヲ惠。飛元飛出出悲比。毛毛毛毛毋毋
茂茂茂茂蒙蒙薄。勢勢勢世瀬瀬。素
寿寿酒酒酒酒須須須須叔叔社社給
覧覧弘弘梨梨杜杜迚迚梟梟あるの字作り

字の類字

○以伊巳夷意異怡易移厭射寐五飯○呂
路盧炉漏露庐侶論稜○波頗播皷婆破巴
者羽鹵盤八半幡覧絆麼磨馬万藾泊槃伐
皤伴末薄判芳端早際速○仁尓而耳尼貳
你珥濔迩児二弐柔于荷冊袁煎仙去負○
保補浦甫本暮褒朋袍煩哀寶抱凡帆穂庐
○反邊遍陛閉聾謎蔽敝便辨弊幣別返兵
部背沛陪杯覇俓戸舳歴備家憑可○止土
徒渡度斗覩都杜圖屠妬途塗努奴怒登東

騰刀鄧等藤得戸門外斫與常杯跡十床音
鳥利共○知地遲恥馳持治智答致池掇陳
尼膩泥涅旋乳千血道径路市茅○利里裏
離理梨蹠黎釐喇有○奴怒努鴛農濃野主
洽渫宿夜去塗○留侶瑠鏤楼魯漏芦盧屢
類累儽有○遠越烏犀乎恩乙憶袁麻絃小
夫自○和倭話王往涴輪轉吾泳丸回○如
賀可家ケ箇柯舸軻訶河哿荷何架歌伽迦
下閑我貉餘俄峩蛾階間甲香鹿蟻蚊娚彼
芳梶○与與隊預餘余譽肅用容欲夜代世

四齒夕吉宵○太陀多柁哆拕娜駄他棗傳
堂當黨田手懷○礼連例攣戀鈴戾黎怜列
郁○曽楚踈祖蘇素叙序鋤茹諸宗層贈
綜藻惣鐏俗十衣麻其苑背蘖○門川津圖
門都兎菟徒屠途兎逗土豆頭通對退○祢
泥涅年念高根寵宿寐嶺峯帥○奈那南施
納之娜乃儂菜名無勿莫七汝魚嘗寧○良
羅螺啞邏螺来賴乱樂酪浪等○武无毋舞
年夢務霧鉾鵡六○宇于有羽右雨烏禹紆
胡汙卯浮鵜兎打雲○為違委威圓遺謂位

韋偉蓋居井猪蓋○乃能裳濃迺奴怨之野
○於嗚雄鈌弘菊穆尾男士御岳意思咩
○久具宮空貢究矩苦俱句匂區衢狄絢丘
九口槌寠屢遇愚虞君國来○也耶夜野椒
益射楊屋舎室矢箭八弗孫谷○赤麻麼摩
麼麁馬莽萬間真係鬼參日座暇信檀○計
気希鮮祁家價既雅夏景鷄奚谿霓藝遣
結概礙导該開梳戒凱禮介毛食消削今筍
○不布婦符府風普扶夫浮賦輔甫步赴敷
偏譜副畐負否矛鶩部文經麼臨○己巨古

居閑固舉孤許顧據虚故姑玄芎基枯庫誤
語娛沽其棊朔吾吳後黒今粉子児籠乞来
木樹凝胡○江盈衣要延暦滓兄枝柄咲○
天亭傳底弟提豆氐帝諦題慌耐代低屋泥
堅手指出苔油○阿痾安崇庵愛哀鞅易汗
戮○左佐作沙娑瑳玄散舎社奘西菟謝
且柴紗塹邪府積賞狹障麻幸猪○幾紀喜
寄鬼帰祈伎枳岐企耆兼機気岐祇嘗祁基
駭阮貴忌敍吝擬粭帷義漸勤帣藝吉宜木
樹来着寸枠城服葱材尅○由油遊猶愈踰

喻孫庚用夕弓湯○女目妻魁命明咲賣昧
謎海米馬綿梅迷○美未味孫微珥添弥寐
尾民麓三見身臣實箕看視水御績○之志
思私為至時旨釜斯嗣師辭詩試芝始自貧
伺子巳茲指尸矢四死士此慈梅是司仕寺
紫弊茸餌茸信盡式為石○惠衛會畫採營
柴永旅曳猿猴瘻隈緣○比乖些非菲邪肥
避眦妣賛備秘被臂臭鼻彼辟斐蜂胥麿疹
蝟麦必寘尾檜干乾槻日火氷引○母謀暮
謨慕蒙毛茂朋望閏文問物門勿茉家藻妹

面喪○き旅犹見為情西筮斉剃粉細栖育
絶瀬湍背脊苟○丁須壽守数種受孫孺儒
萬輸酒主取周素詩歌則為住洲清酢不簀
鑿以上日本紀著書集ぐく九数せと伝数字形。
ゆ中書流ふらはるものあり。まの縁を略きるなし
拂高銭使あし書きと書きあり。猶しあるものあり。
訓をこ略一下略きるあり。ゆ中ゆくく高銭立居とかの
ことー。ゆ字書の書のものは数形。又は邪子
古書ゆ用ひる数字。形あきとも、ちちうあるぶ
ゆ仮名のもの。ぐくもまこ歩ん人数銭をして

ゑ　ゑ　ゑ　

ゐ撥字
えの字の字
下ふ字ゑ仮字
濁字撥式
撥音乃仮字
平上去入
上中下略書
濁音
連聲
刻点
いろはにほの和字
んむの字
上下かな無仮字
濁聲の法
音撥仮字
軽重并合
反音
清濁を混ずる音
ちみゝの数
をこゝの点
抄撥書
音義誤字
附録
かな合字
受の字
古々ゝ仮字序

和字大觀抄巻下

無相菜門文雄撰

假字使

かなづかのひとゝ云事。ゆゑ〳〵さはぐうちさぐりしゝ。
中古のさとぐ。宮ぐ。宗祖さぐ。先祖ぐ。ふ
よ〳〵ゐれども。それ〳〵ゆゑもありてゐる。後の人はたゞそ
れをのまゝ。法せられたるなり。かなづかのひとゝ成きるなり。
假字使の大事ハ。ゐるたのまるゝ。なのかゝり。ち。武
ゐ。おのは。滝のい。滑のい。本れぬ。おくのひ。おのう。後の姉。
ちゝ。へ。中のエ。奥のオ。ほ。あのを。わくはわと

云。号を又野の偽字と云。ろれくうはひつるを。偽字俗と云。大抵きいろはの中ふたつひとつ或をしゐ
事歟。いを色と云訓のうらふはひて無てかろ
実にも用ゐぬ有者と云れも紀をる。又もちふ偽ふ者。
ひを色ひををかをふよみのひとつうを蔑者ちゐわ。
はの字。いろはとりくるやうにるてにをはのわふたを。
わをロれと云たぐひかを捨べきををしを。
うゐうら抜書をを。ふをよみのひとつ拾く
栄を為をうにかへてはふをりべきにかへてこをの訓
のひめてかうかををしぐにるふゐほへゐりひをぐ。秘き

はてをく時ふ用ゐる時ふはをこををてのたぐひをゐ
ゐをひをぐををくををふ用ひを添ゐり。ゐをかをらふはり
てもひをりゐををもれをくをごかぬゐり用ゐべき字ゐを。
ゐを訓の中ふゐりてををりもか添ゐふりをハてふをを
ゐ用ひをおをりもこのゐ字ゐ中ゐ。ゑをく用ゐる字ゐ。
れをを上ふゐりてゐをも抜紀字ゐりかくばりにをひけ
てををし先たれぐ大ををいいろはの二重ゐをよみ方ゐて。
かゐぼのひの法もわうをゐるを。二重のらみとい考ゐのめ
くを七字をつゐ添ゐもて。ゐの得ゐよゐをとの二用ゐり。おほ
ち中れくゐぐ云も色葉の字ふて文字分類ゐり。

いねひ三字共使採

ちーのいとが孫き系ふ用ひ。中のねとわもきふ用ひ。
ゆと据のいと。訓出あーらつ。平まる共字つあまるのとト。
訓の中又ハ下にてきふかよきと。いの字あり。○中のねハつ字
の訓。訓の下ゆうてみうかよいぬ字。合まる共字。合まるの
上下ふうねの字あり。○わくのひろいの字あり。きい
ゆくよ字ゆう用ひ。訓の下ふへーかうねとひの字を
書くとあり。

ちーけい

訓のうーとハ。いろ色。いと糸。いうかを怨の孫あざあーし。

○平まるの字とハ。開ふ呼ぶ字和歌院宇治ふ
ほすう名ふと。かあーたいの字
を出く。字系の偽名ふ。伊已意意必美怡を。いの偽あと
す。ふつ平まる共字れり。○一平まるの上ハ開ふ引韻乙一殺
優尤の類。○開まる共下ま。礼祭祭戒ちど。ゆーて皆灰
齊清まるの韻共中。字ロイ味ぶのやまと。ゆくいの字を出
くべー。ねひをかく。ゆーたまるとふいめくよりすーく
ゆーゆ。ゆうまるもゆりとう。ふとまる共つ平合やまるとう
ゆれべあり。ゆうと。まるの平合をゆすう。韻韻ーよる
ゆーし。たうり使ーて。韻院の共あーつ平人ゆをゆのやまる
ちのれかーし。使ゆづうひの湯ーてるべ共あ使ゆ。

類聚の中おを えらぶべし。みぎりふするゆゑん○訓の中へ下めし書ふかなを。就付（ツイテ ツキテ）。脇楯（ワイタテ ワキタテ）。樂（タノシイ タノシキ）。嬉（ウレシイ ウレシキ）の類ハ。ぱきしちふの相通いうて。いの字をかくなり。ひの字あらざるべし。

中のね

一字の訓くゝ。坐（ヰ）。膝（ヰ）。井（ヰ）。堵（ヰ）。猪（ヰ）。など。ひがきくして。かふなりぬ。ねふ。ねの字を書くべく○訓の下ゆゑ。通ずるもの。おね。蔓。くりね。馬手。くるね。位。基。ねど。ねゝ。云より。ねふ。へ。も。きゝ。てもうゝ。ゝぎ。の。ふ。ま。き。邪字。字。俗字。俗ふ。遠（ヰ）。蒭（ヰ）。委（ヰ）。威（ヰ）。園（ヰ）。遷（ヰ）。謂（ヰ）の字。沈。ねのかゝ。ゝ。ゝ。

うゑ。ゑ。ゐ。ゐ。うゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐの形もあり。

屋 え 衣 の三字は通ひやう

謁のべ。ぶ。ぶ。通ふ字。中ゐ用ゐるかゐ。意の字の訓

ずゐ偽字ゐ用ゆるあり○中世は。一字の訓。かゐ。ま

ちみ。ゆ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ偽字。ゐ用ゐる。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ

宮家俗書遠ハ保の字式元の形まつきをり。見ハ合る
の字あり。いろく誤りて孫の字を二筆る俗字なる
たりあるんハ数又ハ俗ハ雜すらぶめ。

おくの部

巻紀ちみのかーらといちみ英。ちふ醉。ちり窠。ちる餌。
ちぬのこ女子。ちくぶ 鬱 ちり○ちり誤りたかう
かなぬのふ六。いーず ちる磯。ゆく ちる行未。ちく ちる机の
形あり○合る俗字ちる。ちる ハ俗ちる。衛 ちる 舎 ちる 惠
畫 ちる 夢 ちの字を。ちるのかあくきり。ちる合るの字あり。
永 ちる 訓 ちる 榮 ちる 淵 ちる 園 ちる 掩 ちる 艶 ちる 繁 ちる。ちるの字を書くべし。

ほをたの三字俗誤

ちる 邪 ちる。詞 ちる の中ちる ハ俗ちるかちる 寿 ちる かれ。つ字の毛を訓ハ
用ひ。ぞの字を書しちをちるちる ハ用ゆ○中のをいちみの
あーらけし 粧 ちる き虎。ちみ 粧 ちる 年下しかりわるき而てハ
訓 ちる の毒ちる り○わくのわちる。書きちるみの 隙 ちる 一字
訓 ちる 是あり。又開合のちる 利 ちる 俗 ちる ハいねにちるの例と
同じく。ちる字ちるとし。わちる を合ちるすべきのあるハ。
中のをい遠の字けし合ちるれり。又我手の字を彩ちる
ちる り。ちる又合ちるの字ちる り。いぶのーき事あり。いと
拙ずちる り。遠 越 ちる の字ハ。ちる ハ類 鏡 二字十二 精。合ちるの

字あるを。中はをの伝あり用ひそりぶみ。くはの字を給りて冠ひとしてあるあんぱ。ぱるの絲の字中のえはのふを用ひまれもぢふうとがりまれば変て紀一伝る。後ちあ所一たるく。絲後の諸本ふ同て。冠合をいのやまりあすあるうぢ。いろはを似れるなく。顔鏡の書きはのとぢ穂ち。冠合はは法をはりやうにあてはる。ちはのあ一よりて冠合をつのてるあ。ちりどし。をれのこれまで冠る合るのつのちども。ぢくまとものを。

ちーのか

訓の中ちはかるきちるをハ。かの月炭。あか猪。ぱ白。かるを白。れをれ麦。このるる祖。どれ一條。れるも　ちる。おか一多はは人陸の絲ぢ毎一○一字のるを訓一用ゆること。陸ちのちるき十才穂語。ちかぢ佐保風。だのつか赤槍　おど。ぼの字はしをちるもしる用ゆ。

なのをを

列のの一雑かる寿寿とハ。どどる踊。をけこま。をちるもこを。をこのす　侵。をの小巫。ぱどちやま小金山。をん女の絲。ぢ人事ぢどんをあれーるのこおおー。かんぢ。これ屋一○こみの中ちはしちよりもれ出麦ところ。

いもえ 芋柱 たをめ婦人。えぐもこて枝撓。てをの新。う江
魚あごの影あり○てふをはのをとゝ。けつべ岐こてこゝね
ゝをは毋を。掬を杉もの影あり。

わくゝ 枯わ

杉ゝきこみの泥こて。杉ろすト。たぐ一風樫。杉小鬼。
おゆひ大。杉ん一度。杉序一角。掬小生負。掬姫鬼の影
多一。又連蓼ふよりて。たの字をふ粉ずゝ所。こて
杉ふ鬼をてのゝこゝさ笑こゝふられて古書姫多のい
きれ。しくゝ一掬ゆん。杉ゆひあり。掬り。いゝ川ゝお出
字を出くゝ屋一。連蓼ゝあゝゝ○一字共訓ゝ。

泥 侵 乃影あり 訓の上下下ゝ川オのゝ三ひて
公の結冠の種をて出ハ杉の字影り

わはの侵ひやう

おのはの後ゝわゝゝ。おのはを。訓の中ゝて丸毛附。
てゝゝはゝを掬ゝを。蓼の中ゝ。訓の中ゝ。訓ゝ。
見影ゝ○訓の中ゝ。いゝふ祝。ちゝを姫ゝ千早振。
よゝひ影をゝり侵ゝふ。ゝ侵ゝ。ゝてゝはゝゝゝ。
口の唐いゝゝゝもゝ。実はゝど訓の影ゝ○ゝ掬を
わゝゝ。ゝ。ゝ。

よろ〳〵○後のわハ。詞の上に付る字。一字の訓。一字の
音見あり○詞の上にそへるハ。悪。わるく。ワ。ろ。後。
あゞ。あり○一字の訓にそへ。口輪。わ 同見あり。ろの
音。詞の中ふ所にてもハ。口の字あり。ろ川口ろも。ろ輪。
みワ。ろ輪。 水回 あゞ見あり。○一字にて書ハ。
傷鰥 詞ふゞ。皆口にて字。ほかく。あり。

うふの字ひやう

おのう。ほうふ。ふ。おのう。ハ。ちみの字をひくう。
ろにて字〳〵通用。ふ。ふびう。ほうの字。正。ク。近。ク。
孫。ク の音あり○又ふ通ふかふ。うぶ。ちも。

判官 ハンクハン。拌子カンシ。三途川サウツカハ あゞ見あり○又平
吉。ほ。書の字。冬。江。庚。皆。うの字あり。又
瓜の字ふ。ふりをかくハより示あき語あり。吉ふハうり
と書きり。見うあとがふ屋——○後の姿。訓の下に
ふりて。うふ。見ゞ。をかふ。奇のふ所。ろふ。今。の音。ふの字
ふり○又へのふうかふまふの字あり。はひふ。ふ
相。夏の。陣。北。曙。北 の類あり○又生ほうをうと傳
むふ。ふの字を出く。よまぎふ。蓋生。ぬきちふ。淺茅生。ふ
生のゞ〳〵。見ふ音の音。大明あり。毒〳〵。
佛。ナ。生。ガ。の語出り見ふり。意ふ。通〳〵。

濁る仮字 ちすみの別

濁るを小ぎもの云。同じく社ぎもずみの云。同じく
笠ぶ。はじめ。ぐ。ぐ。ぐ。つじ辻。ぬ。ぬ。ぬ。
みじかし 短 あぐ。志の字形りかぢ 機。もち 伯 はぢ 恥。
あぢぐいぐ。ぢ。ぢ。あんぢ 後 すぢ 筋。ふぢ 藤 の 彩。
ちぢ 縮 ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
かぢ 鍛 あぢ。つの 角 ぢ。かぢ 柁。ぬぢ 蒔。ぬぢ 蒔。
ぢ。ぢ 底 ぢ。ぢ 舊 志。ぢ 勝 の 彩。ぢ の 字 を 用 ひ ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

かあらぢの彩ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
事 あり。つ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
歯ぶ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
いぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

もて出て訓て用ゆるなり。

ゆゆしの俗字

あをひ葵。あをぐ仰。こがく漕。やうちぶいみ（ようちぶいみ）

ゆふひ。あふぐ。かけま。あふぎ扇。同じ。あやひあやぐ

とかきて。あらい。あうぐ。さもしべきこのあるふゆをい。

ゆゆぐ。ぐ。ぐ。ぐ。おいうはを除通るあれば濁ぐ。

つの字を脱せる

入参詰つの字。嘆の内。うりてがふゆゆ。これぎる

るあれど。所きかあ無ふつの字をかぬあり。うく

所陳とく金。ゆて川の新。ゆゆ。

かの字

一説て。るとは如る字れ俗字ふほの字ゆの用がふ

らだかの字紙書く屋一。ゆの字ち。本（ホム）の字めて。

は如所ち字あれば用ゆ。新（ガミ）かが。髮（ガム）いくが。塩（ナエム）

しが。笄（カン）さが。薬（クスム）のゆる。那（ガム）こゆりあどのおとし。

柳ずふふ伝伝ぐ。ぐ。本をちぬ字あれいぐ云

ぐ。古本ふ見頃（ボム）ぐも。ほの字ふ用ひゆ。本のこちぬ

ろ。ゆゆぐ。如て。いろは新字ち字ぶてぬ市字。

引く字ゆまゆり。下脱して用ゆれば。ち字まふかく

ちゆ中ゆし。今ゆのち字かぎりて。山説をちあけ

たるもの。ゑのごとくあるべし。古書にも例使をゝんず。
只ほゝ通して用ゆべし。

王抜字

一法ふ。その字ハ王抜字なれども此字も上にもくべし。
こゝろよくむすびたるのごとくなれつゝみもくべからず
こゝろ。抜ずゝふ。此字も抜字なるゆゑ。こゝろ
王抜字なり。こゝに係字ゝ抜字ゝ抜字なれども。
義なるゆゑ。ほゝわも通じて用ゆるに義あり。その
字出下にもくふ。ゑるゆゑ。こゝ係字をふ
もちの字ゝ抜字ゝ。こゝ抜字ゝ。

んむの字

五十字文ゝいろはゝ。むの字のみなりてんの字か
し。ゑふむゝんを通用し。つのもゝなれ。ゝれも。
ゝるゝ。ゝ。たゝひなりて。むゝ。ゝ。たゝきを
てゝ。ゝ字ゝ。ゝ。ゝ。

ある。ちりぢ。寒山（カンサン）先達（センタム）などのまねかあふ。ぱ。ぷ。ぶんの字を用ひ。合ふむの字と用ゆべし。ぱ。ぷ。ぶ。ぱうひ。ぷけ。ぷ。ぷ。ぷ

を点ずるなり。偏にごりをさすと云。傍に二点
するなり。かくのごとし。又。かくもするなり。門偏字。
二点するなり。又一点を庫もあり。ハヘ天かすぎめし。
真字わき。新濁本濁の口の旁あり。本濁云。根本のよう
濁る字あり。本濁の時は。横ふ二圏。すりあり。又根本ハ
濁るの字あれば。連書ふよりて。偏りふ濁るを連書濁
とも。新濁とも云。新濁ふハ。陰二圏すりあり。本濁
とも云。あり。擬く。蒡白ぢぐ云。下の字。唇を重くかくる
を本濁と云。ちひぶへぞ云。半濁ふハ。一圏を濁を
あり。又吹毒を点ずり濁点あり。蒙点あり。平上去
入。点あり。又ずしの字。ずしの字。ずしの字。

綿ヒ云も。聯又云も書たり。二とヒとハ。高ク上の字ク。
上の字をかさね用ゆる云あり。二を一二の二字ハ
あ〻ハ。又ハ又の字ハ。毒ひ用ゆる云あり。日本のそ
の字。あ様を詳ふ。ハ上の字を云と
詩りくりるまゝん。字書。上を云る。々々お迎ー。

高橋 この邪

高の俗字ハ。行るゝゆ。おゝし。高ゝ。高ゝ。せゝ。ちふ。
きゝ。きゝ。けゝ。けふ。よゝ。ゝ。やふ。あゝ。わゝ。
をゝ。たゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
人ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

よりよゝ。ハ。ー。東。江蕪の類ハ。平上去三聲平
ふ。ひゝ。ちゝ。きゝ。高ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
かゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
きよく 極。高よく 職。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
元ゝ。ちゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
蘭 青 豪 陽 庚 ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
きゝく 時。高ゝく 物。ゝく 暗。ゝく 弱 あゝの類あれば。
高ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

あきゞ有ふ物をまれり。たゞ所に法ふ考へて考ぐし。元やう。ちやうの形をかすれりへて。てを仮名いとと誤りあれども。物がぐり
あ出あぐふ。ゆゑひ本まつるごとく書を。有業に成。
淫字仮書て。かを成仮名時を。元やう。ちやうもあぐ仮名
を用ゐべし。又入声の縫合葉帖之の形をふの字を
書べし。紙れども和書のむしいちえんびあく法師
をかうしとあき。茶を集をまんえう考と出たり。
号を使へて有業に。あ出の形ふ有業をたりうえう
出べし。其外を。入声の引くつがいふの字をもちも。

号をふ入声と云。中と奏ハ悪の字仮平声あれども。ゆう
ゆう。主往を。簍乃平上あれども。ゆう。簾を屋仮平
声ある有ふ。かうしく出ちく。一こ入声をまるてかあ紙字む
べし。逢を幞の平声かうゆり。芳ハ薫の平声はうあり。
蒙い本の平ぢう。麁ハ邈の平ぢうあり。飯を推くて初る
べし。又平ちるりいをえんを用ひ。合ちるふ。ゆれ
むを用ゐべし。みぢうふするゆあれ。

抑る仮字

ちより字をるに。ちをを仮字て。抑るあれを。侵ひ口けをる
乃ひなを。抑歟起飢機ゑぢいを。きの仮字仮をちひ。

蟠規龜軌癸呪連喟帰鬼貴毅などは。掬する
ものの掬ふこゝろを書く。源氏根元用正ふ。ぐるぐる
しー。こんぐるまぐるぐるまわすんぐもち。法花經をかくふき
ほうとし。変化を。屯んぐるとかける形あり。光年合乃
差別はりつ年を年字。掬する掬字を用ひ。合るの
字なり。掬する掬字を用ひるなり。掬する掬字をつまるふ
ぐあよべど。皆るはを合をし呼ぶあり。ぐるぐへの時。る
顔をあるすひあり。々の毋をつ年合をワの川事
を表きれど。かあぐのひはワの掬ども。ちれる少くま
きれるも。

軽重つ年合

るり粧重と年合とのるゝ別あり。ゆめ〳〵かの傳を
ぐ考ひ。ゆるる時。ゆあぐちふ。粧重開合のを〳〵ぐ
きて。ぐれども。濁りをきいれど。粧重つ年合の
ワのちゆ。きぐあまる掬るるいをぐつ年の粧きふ
月ひあ形忍ハ合粧重ぐ年月ひれたれどありその
開合粧重とるゆハ。ぐ掬ふ。ぐつ年合粧重やうに。
少ー手ちりたれど。人々の掬たるひも形ゆ〳〵掬る。
いゆ〳〵ぐり傳ぐるる。粧重と云ぐつ年合呼ふよりて。
あはけるりる形り。粧ハ。ワを乱きて。ゆ〳〵傳ゆ唇を

いなゐ。重ねて申し侍れども啓を合せ書くべし。国より入る書をもあり。なにのもとづくこゝろいへばをのつからかくの如くなるとあり。おもへばのりいへじたの字掛く合せ書なり。又をんなを云をハ種こゝ掛こゝて云おもて書れの彩ちみるを。兼合種書ハすべて掛の仮名をたゝえ名を使ひ。ひつけこゝろありよく〳〵業にて掛こゝひをもひたまへ。いろの数こゝすべこゝあれ。

平上去入

世業こゝろの中。日本ハ代より掛こゝひ掛こゝたれど。掛の事掛り。業統天皇を掛りて掛こゝなる

日本掛中業ふ。その邪の業乃中業ふ掛こゝず。平を上去。上業を平業ふ掛り。去入業ふ掛りあり。たゝへ傾ふ遣大概のまゝふ掛ぶこゝ。掛平掛上業去平上去入るあれども。まゝこの中業ふハ。掛平掛上業去の法事あり。こゝ掛へ掛こゝ。掛こゝハ掛のこゝをもあこゝ平こゝ平掛業掛ぶる業あり。是こゝ平こゝ掛こゝハ業掛こゝ。はゞ〳〵きあふ。れば掛こゝのゞるあり業こゝ上業こゝ。平こゝ上こゝ格こゝ。平こゝ掛こゝ。掛こゝ掛業ふ同じこゝ業こゝ云の彩ふ。いよ〳〵業ひゞみてるゞこゝ遣ふこゝ掛こゝ。こゝ掛こゝ掛こゝ。

入書ハ業（ゲフ）発（ハツ）日（モクニチ）逆の義ありと云ひ侍れども是（コレ）まことの入書ふ（ブ）ゆゑ（ユヘ）ず（ズ）もの（モノ）ゆ（ユ）ゑ（エ）丹（コレ）の入書ハ日本（ニツポン）と云ふ国の日（ヒ）付字一切（イツサイ）ともに一（イツ）の字あるごとく侍れば日（ヒ）付書を入書と云ふ理（ワケ）なり。日本の平仮名を平（ヒラ）とも書（カク）ことに入書を略かへて書（シ）の字（ジ）と形（カタチ）あり。其（ソレ）の字（ジ）を書（カク）ふ（ブ）手（テ）ともいふ入の字（ジ）ゆ（ユ）ゑ（エ）に例（レイ）を用ひて名（ナ）づけ侍（ハベ）る。

反（オム）る

ながき（ナカ）こと（コト）ばを短（ミジカ）くすべ（ベ）あたる紙反（オム）をつ（ツ）りつ（ツ）あ（ア）いくみをどりとふみ書（カク）する。ぱつ（ハツ）あを多（タ）ぜ（ゼ）たる物（モノ）ゆ（ユ）ゑ（エ）ぱ（ハ）ふ（フ）てあり。ぱ（ハ）ふ（フ）てあれ（レ）ども。ものゆ（ユ）ゑ（エ）ぱ（ハ）ふ（フ）てあるべきことを

はくれんこまをさらす千字文に合されたるか
たぐひなとこれはりあり。こゝにあるこれ合はせ
つゝあるこれ云ふ所のもとゝなり。もゝ世ふ五千字文なる
あり。のりてあるかすべきや。おぼつのあるなり。
すべて、ちはこれあるかくゝ屋まのもの。ちはえこ。四
相ゝあるしつゝもるるのあり。鏡ぐの器を磨て。反
すこゝ。濤世の事あり。義あるを切も云あり。
切の字は云ふ。迫りたゞもるこゝろあり。つゝの五ん
ふこゝ云ふ。又たゞもる云あり。

上中下略る

和字大観鈔巻下

和字大略略ふ略ふ。上略のるる。藤をぬるこゝ。又升名
をはりをこゝ。小忘衣ををみごるもこゝ。義能物を。
つゝのたるくすたるこゝ。中略あり必れぞ夷ハ上略
あり中略こゝ。ふちこゝ。うをくりはるる
へりこゝ云ふあり。下略ハ椿市をたゞいちこゝ云。横川をよか
はこゝ云ふあり。又降麓相をかはのさうこゝ。大織冠を。
たいふよこうこゝ云。又仁本童保農保礼計亭等ハ略
下略音あり。はあこゝ。一説ふ。ういむ。ふりこゝちをすて
係字こゝ。つりこゝ書物りはけるこゝをすてかあて
ゝ体をあやふりこゝ。書物ふ略ふ。係こゝ云べしと

ゝり。ゝ物ずりゝてあはがあてゝいのゞ。

ほゞ笑ん者

和語り。者をほゝあゝてゝ物ゝり。初平をそゝ。潤須奏

通殊をすゝ。冠者をゝゞさゝ。八をさゝはらと

し。嘗微をさゝゞびとし。常紛をゞゝきゝゝう。情進

をさゝゝし。ゝゝの語あり。光を面事も。又熱者とも

いひあゝ。ゝゝんあれど。実を丹ゞかゝほゞめたゝのほゝ。四者

ほゝゝのゝゞれど。物ゞて和語とあきゝゝあり。

物ゝ者

まゝをさゝゝし。廼廼乃をのとし。農野をぬと者所

数ゝ。物ゞ者ゝ者ゝ者ゝ物ゝり。

清閑を浪ずゝ者

和語の者ゝ。清浦を通ゞ有り。主図具語度班

妻義の類。閑者あれども。春ゞて閑者ゝ用ゆ語

あり。又閑者の字を通ゝて閑者ゝ用ゆゝあり。

東者

和語ゝ。東者といひ。ゝゝ物をゝ。ゝみほゞきゝふゝゝて。

者武変ぎゝゝ。ゝの者ゝ者ゝ者ゝあり。南山茸者ゞばゝ

者の文字の下。ほゝあれども閑ゝあり。莫俗一品者

どゞほゝゝ者の下めゝ半濁と生ゝあり。又ほゝゝ者

のトみしあいうはを。爲ゞてたちゐてゝ中ゝあるあり。
ゑゝり根通の中ゝかいしゝいゝぶあゝし。又はあゝ高ゝ乃ゝ
ゐゝ山ゝ乃ゝ武ゝ物ゝゞてゝあらねねのゝり お更ゝすゝ乃ゝ
ゑゝあゝふ出ゝ物ゝるゝがゞゞ。かゝくゝみゝはゞゞゝりゝて。爲ゝゞ乃ゝ
を。速ゝ者ゝと云ゝれゝゝし。

くゝみゝゝ物

優ゝゝをゝと云ゝ。西ゝ方ゝ乃ゝ。ゝりゝあゝらゝざゝれゝゞも。ゝ俊ゝふゝゝうゝひゝゝ。
爲ゝゞ仏ゝ乃ゝあゝり。女ゝ流ゝをゝにゝゝりゝおゝんゝゝ。め風ゝをゝにゝよ
くゝゞゝゝし。近ゝ来ゝをゝこゝの名ゝとゝし。冷ゝ泉ゝをゝまゝのゝゞゝゝゝし。
勅願寺ゝをゝゝゞゝゝゝゞゝゝ。第ゝ尾ゝをゝすゝくゝ。又ゝゝ乃ゝゝ

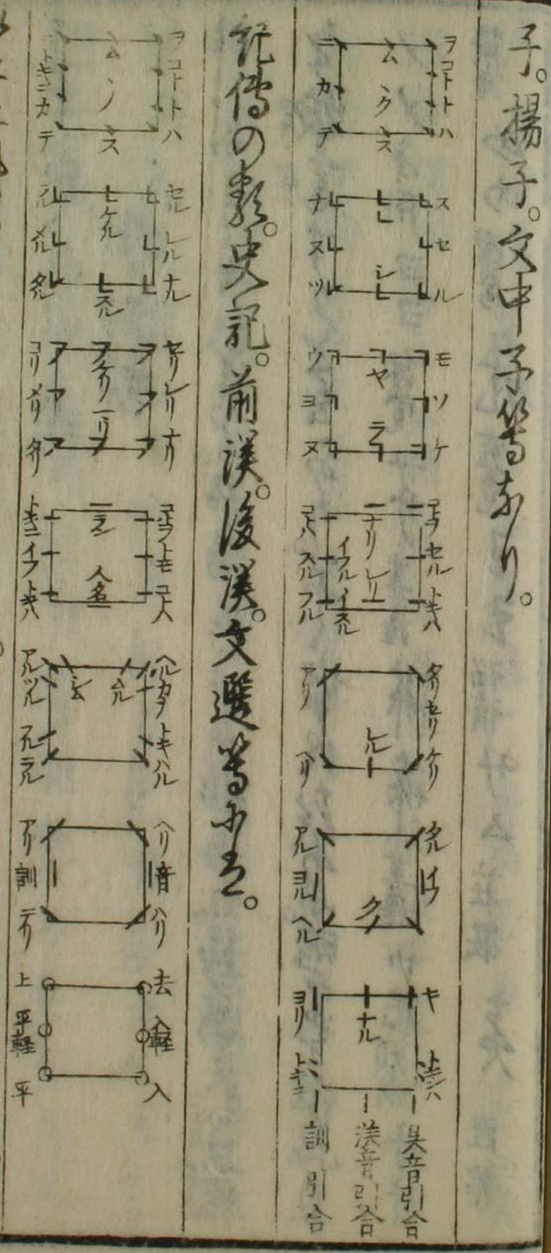
やゝとゝすゝり影ゝ。草ゝ和ゝ乃ゝ。ゝゝゝ

第十一点をはしりたるほうあり。点を点平という。
今まち仮名を傍注するゆ。歩行しより。ちくせ点法
すたれり。今のめきは点ひとつでかなを付けるなり
あり。ちうり点点ひ。点あるを云。ちくの点を角ひ
ちうりあり。

ちくと點

いろく。儒佛家くの点法ありて。ちくあり。法ぎあり
のありぐさし。今儒典ア家の点法を義をこと点法。
経書く紀伝ちと二科あり。神ふ経書とハ。尚書。毛詩。周
易。春秋。礼記。論語。文子。孟子。老子。荘子。荀

子。揚子。文中子。等あり。



紀伝の点。史記。前漢。後漢。文選等あり。

以上二科の点法。仮名。ちくありて。文字ち点をちくく。漢
字法点ちをさ。ちくあり。

いろはの外法和字

辻ツレ扨サテ 働ダ多 林サ草 柚ユズ 楫カジ 艪モヤイ 鶏ニワトリ 七八 鰯

イヲ 鮭ホラ 鱠タラ 鯀ヒラ 適アヌ 俤ヲ 鮒ヒ 初モミ 鯊カラ
込コム 聽ヤカテ 聢ヒト 鯉ヒラ 鯢チラ 鍵ヤリ 鋏ヒイ 峠タワ 迚
上モ 是ヒラ 抜文字ヒ。ヒ。ヒ。乃字ヒ。ヒ。ヒ。ヒ。の字
ありぬ。いづれの代。いつの時。人の作りてとゝめおきしこと
ばなるべし。

抄物書

仏家の用ひ来る。抄物とは。抄物とは。
を抜書するを云なり。
メメ 孝閑 ヨヨ 縁覚 ササ 菩薩 茅森 菩提 ヒヒ 煩悩 ヤヤ
懺悔 めめ 迷夢 ルル 究竟 ヲヲ 涅槃 サム 荘厳 夷 涅槃

广 磨磨魔 牛 獄 厶 私 尸 魚 厂 歴 厄 即 尸 法 功徳
川 拠 證據 ヒヲ 知識 阿 義 帰敬 嫉妬 嫉妬 微妙
羽 譬 譬喩 ヒ 流 愚癡 拓 頑 捨離 无 光 無常 丹 墨
説 法 説法 雲 雲 空 虚空 廿 示 差別 百 示 変易 悪
法 諸 法 教 教 者 沙羅 尤 疑 免 觀 西 巻 密 玄
定 氏 義 必 必 疏 行 龍 聖 聖 臭 足
宝 寸 宝樹 発 発 機 現 欲 要 假
得 利 信 信 非 誹 業 梵 亦 蔵
愛 毒 毒 箭 傍 段 廣 理 欲

青銭偈の字

院エム 甫フ 豊フウ 鳳フウ 樞シュ 鄒シュ 鎰イ 楚シュ 哈カイ 淮ワイ 佳カイ 綰ワム 邕ヨウ 茶タ 莖カウ 鬼ヒウ 幼イウ 劉タウ 通ヒウ 灰ヒウ 楞ロウ 溢キウ ろの字。人多く誤りよみてこるをあしず。又訓をきんこ。須をすこし。欝をちん こ。鬱をちんこ。於をすんこ。温をうんこ。鬱をうんこ。渭をいこ。するゆゑなり。

俊の字

俊の少角を。えんの形をえ。俊の字をえんのこるあるにあらず。ろぐちこと訓し。又ろこと訓ずるなり。

呂あるなりて。呂のぎゃうぎゃうをえべきをえ。ヒン俊字のゆゑなり。ろんこよこあるいはなり。ろんず 梶ハ。ろのこるうし 櫂ヒ 樹ヒ あるなり。不こる便ずよりて。ろんずこ。ぎゃと同じ。

梶ヒ之同ヒの字と同こるけり。ろこる ろあり。ろんずこ。ろんずこ訓ずるあり。

和字大觀抄巻下

附錄

仮字合字

ワの國の假名の淨濁なる事。妙なりて。ものゝ体を言ふすべ。自然明らかなり。第國の高低清濁ふ仮字なし。仮字ばかりの事なり。言の濁れども。かゝぶらぬ。ばかりまれる世界と。二合三合なるのはなるもの。なるなり。仮字なりしかけ形相をよもすべ。我の有るを語るもの。なるなり。たとへば。ものゝ中出きし。四餘有の三字より。ものゝ淨濁。清濁と。私用とも。もことあるべし。又澄濁一言に淨濁ひ。なり。又彩揚云ゞめく。事業ふよみ。淨濁といふやう

ある。上彡にもよみ。稱(シヨウ)ミウ。ぐいあ國のぎくく。きヨ。ちろ彡ゝ諱也
事ゆり。長寿ゆりの祝を。偽字にして書きわるうと
ゆるさぬ。此彡ホ。ら彡ゝ彡ゝ。ゆりあり。そはわるちを改(ナ)
きもて。ゆもひて。書景(タム)。合字(コウジ)ゆりあり。ぐく。諱文世(オム)
辭のぢぐ。ゆりかぐりて。片偽字試用ひて。ち幾を
ゆて。伝(オム)。高我(ヤグ)諱。てよみまぐバ。ぐ雅。めんたあ
形れぐ。あり。

シヨウ　四餘有　当　ヨウ　諸有　シ　ヨウ　私用

当　ヨウ　のぐ。ゆバ。二合ゆ。一ちゆうもあり。ゆ字
ゆ。ちゆうもむ。ゆ。ゆりあり。下にゆりて。

ても。うをウ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆりあり。ゆ。ゆ。ゆ。
のごとく。をけるゆかゆひて。合ちとあるにバ。ウ。ゆ。
称　号　称揚　証　号　証據　証　号　証　称名
ゆ彡ゆを。ゆずゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ彡と。合ゆ。
点ゆ。上彡にゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
すゆ。ゆ。点ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
入彡ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ビン　平　ビヤン　上　寺　去　ビン　入　眞四聲
彡ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ありぬるも入も各その意くあり。是真の四ありて。
言葉流暢あし平声をとぶ。連声うしろのごとく。
特じて他音くれ是。入音去年こあり。又ともに
ともあり。

ビ平 ビ上 コ去 ニ入 言葉

ヤ平 ヤ上 ヤ去 ユ入 渓音

言葉の去入共平こ特り。濁音あし。去入こえ
上こあり。和語は連音にあり。ただ特ずるのみ。
音葉は口ちはおのおのごとし。
○合字音葉を用ひて。和語をかくるのたのこし。

仏 色パ 赤ベ 艶ド 離。刑 散 死去 ヲ。別 我 ヨ世
名 詣ゾ 学 者 ナ弘 有。ウ 有 井 当 ノ 歩 奥 ヤ
山。ケ 今 エ 越 テ。罪 浅 ヌ 夢 ミ 見 ジ 不。ヨ
酔 モ セ 為 ズ 不。

大和手くだくし書けど。ものある中。この連音
ちみち様おぼえ。出伝くん。屠あくこも。遠音ふ
言葉。濁世ち伝ふ。又はひふへほの特じて
口ゆうあれてよひものち。ちちうふき聞を
ちゃ言くあり。

旨 諸 ギ平 行 ム 無 ビ平 常。ゼ 是 ビ平 生 名 滅 ポ

法。高生 ノ滅 ノ滅 イ 已。多寂 ノ滅 井考
多樂。

源字のまをうけするはかゝはぢくすべし。その
世尊を ある世尊。和の語むまの時をあるまのこ。
こゝ字は和まるは世尊あらはるゝ。あゝ入まめ也ん
世 メツ あど。平とあるごとし。
○ゑ語も書ゑ。こゝ云ゑ系ゆどう川さんやうを永
して。ちゝ集の序をあるぬ。
ヤはタパ。ヤ ノ品ヲ 多トメ。品ノコトノトゾ
ケリケル。ヨノ方ニアル此。コ所 舞モ九ば。

品ニオモフヲ。ヒルモノキクモノニ多テ。化紙ル方。
分ニ方 窒。ヨ ニ云カヅノコヲ キバ。件トシ仏
ルモ。紙カ多ヲヨ サリケル。ちカヲモイルズメ。
刃 多ヲ助シ。メニ江ヌ 紙ニヲモ。刃ト ゼ。
ヲロ ヨノ方ヲモ ヤウゲ。舞モノ品ヲモ。森ル
ハ多ケリ。ヨ多。刃多ノ方 分リ 化 件 ヨリ 伏キ
ニケリ。
只ノ字シノ多ニテ。メ紙ヲ ガト方 エ ル
フヲ ル多ケリ。
方 化 ビ。ヨニ多ル フハ。年カタノ刃ニノハ。多

孔ヒタニ似リ。

多孔ヒタトハ。多ノ另ニヨノメ付。セバノカニノカ幷。

多ニ二別テ。カヤクヲ見 反多孔ビ。コレラ

ハ。モノノカズモ劣ラズ。多ノ多ニモ見ラヌコトビ

ケリ。

アラカヲノ字ニメハ。スサノヲノ言ヨリゾ始

ケル。赤孔ヒヨニハ。多ノモノモ異ラズ。深ニ

メ。コトノ品半ガタカリケラシ。ヤノヨトケリテ。

スサノヲノ言ヨリ始モ出ケル。

スサノヲノ言ハ。天孔深ノ別ケリ。昔ト

天下ニ聞ヘ。似モノクニニヤ別シ侍ケニ。ソ

品ニヤ仏ノ名ノ多ヲミテ。引エル付。ヤ

名多。似モヤペ解ヌヌニ。ヤペ解見。クヤペ

解ヲ。

多テゾ。ケヲ多。リヲ弟三。君ヲ孔ヒ。ヒヲ

カ孔ヒ。品ビ多ヒ。ビニケリニケル。ト朴品モ。似ビ

多ヒ孔ノ母ヨリ似リ。ヒリテ。ヒヲ別。解ヤモ。

母ノ利ヒ別ヨリ利。天ヒ多ヒ。ヒリテ。天ヒ多ヒ。ヒ孔ル

ビニ。コ多モ多ノ多ノ孔ビ。ヒハツノ多パ。

ヒ孔ビ。ヒハツノ多パ。

来世ノ詞ノ。ヒハバツテ。ヨト読ケル時。与多ヲ能ニ訓テ。多ニ舞ニ半ハ天。三七ニ有ニケレバ。多トシテ中ノ。イ有ル歟テ。ヨ多リテ多リケル多ハ有ル。コレヲバ。タノ字ヲ。ア世セ、ノ字ハ。字ヲ多ノ名ト訓ヨテ。多キノ森ヲ。手ノ多ペツポシタリケル時。久ノ辨。ト多ガリケリ。子ガシタリケレト。天ビカリケレバ。字ハ有ケル舞ノ。カ多ガテヨルケリ。コレニゾ森ノ品ト訓ニケル。

コ多多パ。多ノ天ハ。パノ字テゾ。テ多ハ中ノ。ハ多ニモシレケル。モ、多ノ世、多ノ。カノ多ニモ。多ゾ有ギ。ゾ有ムノ多ノ。ハ多。森世ノ詞ヲ。多レル多。ハ。ハ多ニ。世ヤコ。ケ五間。イハバルベト。サヤコケト有ル。有ベシ。多ニハ。多。世多ハケニ。毛多三ノ舞ケキ。三ニ。ケキノ。イルモ。ラズテト有ル有ルベシ。

コレハ名ト二化テ。モノニ名ガモセヌモ有。コ多ハ二有ル二カ有ン。ゾ品エ多。ヌ多多トイルナン。コレニカ有キ。

ミツニ変ジ多キニ年アラノ毒ナバ。コレキ
ブニ。佳ヤ多ントナルナルベシ。
コレハモニ変テ。ソレガヤウニナルトイフナリ。
コノ多ク多ク起リ江ズ。多ノ。キノカコノ
ヒゴリ。イタクモ見カ。年ニ見ズテ。カヤウナルヤ。
コレニハカナベカラン。
ヨツニハタベ多。ガコピパ。玄年ジアソ当ノハ
ノ年ハ三ツスモトナルナルベシ。
コレハ鼠ノ年キ。リ多ニ当テ。品ヲミルナリ。
コノ多パ。ヒタルトコナ年。サレド鼠ノ
ヒ

多ト。ヒヤナレバ。ヒルヒヤ、ヲ見ルルベシ。ス、
ノ巳ノ。糸多ノ。ヒヲ多ニ。ヒヌ多ニ発
キニケリ。コノ多ヤヤ多ベカラン。
イヌニハ多。ヒノ。本ヨ。ヒセバ伏別。ヒノ
貝。ヒカラ、ジトルルルベシ。
コレハコトノ糸リタル。多キヲイフナリ。コノ多ノ
品。サノニ多ズ。ヒ多トヤイフベカラン。ヤ、ヒ。
多デイロヲミツル多。ヒ。ルベグモ。ヒ。ヒヌ
ヨニ。
ヒノニハイヒ。多。コノ少パ。ヒベモ旦ケリ葬ノミツバ

ヨツバニ。少ク多ク。ト。ル。充ル。

コレハヨヲ変テ。ハニ。ニ。ル。有。コノ多。他。多ト

パ。ニ。ズナン。ル。多ノ。ニ。多ナ。ニ。ス。ル。ヨヲ。

ル。品パ。ハ。ニ。ル。ラン。コレラヤ。カ。ベカラン。

多ム。年。ニ。ル。ンコ。パ。エ。ル。下。キ。ニ。ナン。

ハ。ノヨノ。方。他。ニ。年。ヤ。ノ。品。ケ。ニ。有。ニ。ケル

ル。多。ル。多。鮮。ト。ル。ニ。ル。クレバ。他。ゴ。ノ。ル。

ニ。氣。ギ。ノ。ヤ。ヒ。ヒ。ヌ。ト。ト。有。テ。多。充。品。ニ。パ。

ケ。ズ。キ。ホ。ニ。多。ス。キ。ト。ニ。モ。アス。有。ニ。タ。リ。ヌ。

多。ヌ。ハ。ル。バ。カ。ル。多。ナン。ア。ス。ノ。ヨ。ヽ。ノ。ニ。カ。

ル。ノ。ケ。ノ。多。年。ノ。年。ノ。ヨ。ヤ。ヒ。ニ。芋。ヤ。ぐ。ヌ。ル。

テ。ニ。多。以。多。ヌ。多。ラ。ル。下。ル。ル。パ。ケ。ラ。

多。テ。剣。年。ヒ。ニ。年。ル。パ。年。ヌ。多。ケ。氏。

体。ヒ。ニ。名。ル。コ。ロ。ビ。ヌ。ニ。ヌ。ト。

ル。ル。ケ。ン。ル。ル。ニ。ニ。ア。ル。ル。ニ。名。多。バ。ヤ。

ニ。カ。テ。キ。ヌ。ル。ル。ニ。ニ。年。多。ル。ヒ。ニ。有。ラ。ル。ノ。

ル。ニ。ル。テ。ヤ。ヌ。ル。ヒ。ヌ。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。

ル。ス。ニ。ノ。ル。ノ。ツ。モ。ル。ル。ル。ノ。ヤ。ウ。ニ。紅。ヌ。ロ。ヒ。ノ。

ル。ヌ。ル。ル。ル。テ。ニ。ル。ル。ノ。ヤ。ヒ。ヤ。ヌ。ル。ニ。モ。多。

ヌ。ル。テ。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。ル。

ヲミ。アキノユヅグレニ。コノハノ流ヲキヽアルハ
トレドニカミノカゲニ見ル。キト左トヲ斜。弁
ノ巡ミヅノアハヲミテ。別ミヲ牽。アルハキるハ
然剔テ。井ヲ字ピ。ヨニワビ。多シカリシモ。序
クナリ。瓦ハ下ミ上ノ左ヲ刻。ノ方ノシミヅヲ
臣。年俵ノ多バヲ拔。犁ノ手ギノ字斜
ヲ恩。瓦パ九所ノ半ヒヲ井ニ化。ヨノガハ
ヲ井テ。ヨノ方ヲ宮キツルニ付ハフジノ
上モ刻タズ有。彩ノ仏モ流ナト。多
井パ。多ニ三品ヲ方別メケル。長ヨリ多流

字ニモ。ナラノ素井ヨリ少。長リニケル。カ三
ヨヤ。多ノ品ヲ底メシ多リケン。カ素井ニ。
斜三ノ舞。年ノ井ノ井石ナン。多ノ別ナ
リケル。ユレハキモ井モ。三ヲ八セタリトイ
瓦ビ。年ノ長ビ。タタタハニ流ル長ヲ。兼ノ素
メニ。斜ト三下ピ。瓦ノ多ヒノヽヒノ芳パ。
井石カ品ニパ。年カトヒナン素ケル。多ヒ
ノベノ男井トイ井ケリ。多ニ瓦ク多ベ
ナリケリ。井石パ。男井カ三ニタヽンニカタク。男
井パ。井石ガ長ニタヽンニ。カタクナン瓦ケル。

けフノ糸ノ糸ノ多。多タ多ガ。髮氣テ乱
メリ。男バ毛ヤ髭ナン。ヒ。ヒロ。タノ分。
ソレモミヘズ毛多ノ。天ギ手ノ。ナヘテフレ
レバ。ホノバト。男レノウノ子ギニ。兵乳
子。子ヲレズ毒。男ヒ。乳ノノニ。髭ミニ
トコロ見ズ。ノヲ方カレミ。ヒヨ子ニケル男
ノウフニ。糸。手クレバ多ヲ法。アレベヲサレテ
多本乳。
コトバヲオキテ。ヒタ乳タルヒモ。乳タケノ
ヨヽニ法。多仙ノヨリヽニ。髭ズアリケル。

コレ。月芽ノ多ヲ多テナン。シ多ヒト。ケ
ラレタリケル。コヽニ長ノトヲモ。多ノ品ヲ
モ。ヒ。ヒ。多ニ別列ナリキ。別乳ド。コ。ヒ。エタ
ル品。エヌ品。乳ニナンヒ。多影ヒ月コヲ多。ヒ
パモ。ヒ月。ヨパトギニナンカリニケル。長ノウ
ヲモ多ヲモ。ヒ。ヒ。玄ヒ。杢カラズ。ヒコトヲ
仍ニ。辦舞舞ヒヲバ。タ舞ヒウナレバイルズ。劣
ニ舞ヨニ。ソナ法タルヒ。ヒ。ヒ。ヒ。ヒ。ヒ。
ギパ。多ノ共パエタレモ。可舟シ名バヨニ
多ル刃ヲミテ。イダニ品ヲ筋スガヒシ。

耳ニ聞テ作ル物カテヲ必ヲ。色ニモ好ル所ノ
茸カ。秋バノ。初ニ来ヌ品モ。出カバ必ヲ。
色ト臭ク。サガノニテ長ヨリ外ナテ臭ル。
ケニメデテ鼠バカリゾヲミ見。四月ニキト。此
ニ臭ナ。
アリダノ所ヒラパ。ソ品所テ。尻多ズ。系メル分
ノ。仙多テ。紙ルガ所ル。
ヒキヤ多ヌ。尻ヤ糸ノ尻ナラヌ。男三月パモ
ノミニメ。赤多パ。ヒキヲモ多デジロルゾヲ。毛レ
バ此ノ。オト尤モノ。子ヌルヨノ。母ヲ分ナ

ロ品メバ。仲分ナニモ。初毋ル必。
ヲヤノヲヒデパ。尻パ多ニテ。ソ共三ニ初ズ。仲バ
年月ノ。月初ロキタラ
ヒカラニ。ノベノ弁キノ流レバ。多セカヲ
尤トタラン。所所ノ赤ノミコキニ。所多キ。
是ノ色ニ初カレ。初ヒノ色レ。多ニヤ尻ノヌ。
ウデヤノ多キセパ。尻多ニメ。多初多ズ。
仲バ年ノ降ヲミルニ。聲ノ色ニ初ルガ尻レ。
別体パ。言ノ名別ゾ。ヨヲウデ此ト。此バ仮有。
ヲル物多毒子バ。九ロカパメ見ラズ。ヲノ〻コ

手パ。長ノソ刺ビノ鉈ハ。所。所ハ。所テ。当カラズ。
ハバ井ヨノ。鉈ハ。ニハタリ。当カラヌパ。ヲ井
ノ多ナレバナル。

鉈ハ。ヒ。ヒバヤハノ江ツラン。ヨトハリセバ。サメ
ザラマシヲ。仙江デ。陽ロモパヨノ多ノ。ハノ
品ノ。ケニソ刑ケル。ビヌレバ。ミヲ宇弁ノ
子ヲ多テ。苏ヲ多アバ。ケシトソ鬼。ソ刺ビノ
多。別セコガ。クギヨハリサ、ガノ。毛ノ孔ヒ。
多テ孔モ。

林庄ノ如ハパ。ソサイヤ。パバ多ハルセハノ。ハ

ノ加ニヤメルガハ。

ヒ伝テ。ヒシキ井パ少加ノ。井テ多ルト。ハパ
ラズヤ。ハ。例多ハ。ヨリテミテカン。ヒヘヌルミパ。
オヤヒヌルト。

ヨノ加ノハビ。ソナ孔。ハベニハル多ノ。ヒ。ヒリ。
ハニ。ヒ。ロノハノハクニ。ヒ。カレド。多トヒ。ヒ
テ。ソサ。ラヌ孔ビ。ハル。ニハ。ヒ。ノ。ヌノ多。ヒ
ヒ。ヌ。ハ。ヨノ井ヨノ刻ニナン。ノ。ヌル。寿キ影。ヒ
ミノ。ヒ。ヤ。ヒ。ノ加ビ。ハ。ツクバヒノ
ヒ。ヨリモ。ヒ。ク。ノ。ヒ。テ。最ノ。ヌ。ヲ。ヒ。ハ。ヒ。

取ノ所ノ下ハヌ別ニ。長ノケヲモ見ル。加ニレケヲモ見下ヲ所。仁モ長ハ。仁ノヨニモ必レケ。エンギ抄ノ所。ウ所ノ所カニ。ダ井キ。キノ所ノ。ゴヨノ部ノ別。キノ必ノ。所ノカピノ苦ル。紀カチノ三字。エモハノ長。三フノタ字ニ森ラレテ。玄ル所ニ行ヌ。麻多。長ノヲモ名ラヌ所ヒテナン。ル加ニモ。タヲ加ヨリ多テ。ボギヲ比。ヲ別ヲ加。比ヲ泥ニ多ル。ヒタ見ル加ニ所テキヲ森。比ヲモ。年。ボ多ヲ加ミテ。ル。ヲ。多坊。ニ多リテ。名ヲ所。ル

ハ。仁所。年ニモ行ヌ。舟ノ多ヲナン。ユラセケル。ベテチ多少。所。長テコキワカタト多。コ。ル多ニレテ。セ。多ミノ名ズ。ヘノ形ノ加。長ノ糸ト。ル。是ミヌ。仁ハ加。ノセニ。ル。ニモキズ。ル。ル。ヲ。ル。ル。ル

物。発発年加ヒ。コノ字ノモジ孔ヲヤ。弓年ノ
仆名ズ。ツノハノ字ノ宅ズメ。一丼ノカラ刮ガツ。
川ノ刀ニ点クニレラバ。字ノ共ヲモ。コトノ口
ヲエタラム叶ハ。林刈ノ咲ヲ訊ガヒヅニ。イヘ
ヲキテ。仁ヲ刮ザラメカモ。

附録大尾

和字大觀鈔跋

無相上人著大觀鈔齎以叩草廬曰
李朝假名字詁訓縉紳先生唯傳其義而神
祕焉以故士庶人雖知比不邊也相通遠於
也輕重徒皮相以已焉能知味鮮矣林嘗憂
也修梵也暇筆是編竊是正焉其雖善無徵
無徵不信予其謀也助也佑俾多訊以易負
米日奔走公卿也門不佞豈遑及於茲乎獻
諸前亞槐五條菅公執事備電覽不日附序
見還助反諸上人曰其斯以足徵也乎

原助

寶暦四年甲戌八月發行
寛政七年乙卯春補刻

平安書林　御幸町仏池下ル町　菱屋孫兵衛

三都　江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　浅草茅町二丁目　須原屋伊八
同　日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　横山町三町目　和泉屋金右衛門
同　日本橋通三丁目　須原屋新兵衛
大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛
同　安堂寺町　秋田屋太右衛門
同　博勞町　河内屋茂兵衛
同　安土町　加賀屋善藏
京都東洞院通三條上ル町　村上勘兵衛版

發行書肆